民主

よろけた甲虫が肉切包丁を握っている
黒々と、てかてかと光を反射して
どんな呟きも漏れださぬ口

素早くはないが確実な一振り
鮮血と呻き声
直線の街の中に引かれた直線

抑圧された逃亡者どもが
叫び声をあげた者を見つめる虚ろさは
そのまま自縄自縛に甘んじる奴隷の眼差し

秩序という名の暴力だけが官憲を統率し
大衆はのぞき窓の内側へと避難する
そして血に飢えた十字架を称賛する

＊

甲虫は殺虫剤を浴びたことがあるのか
それとも、それを浴びた者たちの
凄惨なあがきを目にしたことがあるのか

かの甲虫は平等を欲してなどおらず
ましてや放縦という名の自由など
有難迷惑もいいところだった

「賢者よ、俺を縛ってくれ
手に余る自由などもう要らない
不平不満を吐き出すだけの自由なんて要らない

おお、賢者たちよ
俺はお前を信頼する
だから俺を縛ってくれ
自問自答など必要ない
ありのままの世界の中で」

彼には無期懲役が命ぜられ
そのまま忘れ去られた

(2011.5.28)